

震災特集2

被災地のために 母校のために



震災後、多くの同窓生から、被災地である相双地区へ、学習環境が整わない原町高校へ、様々な形で支援をいた...



防護服で任務にあたる森さん

一人目は森さんです。高校時代は山岳部で活動。卒業後は陸上自衛隊に入隊され、現在は花形部隊・第一空挺団の一員として活躍されています。

母校を拠点に

私は高校を卒業後、自衛隊に入隊し、平成三年七月までは北海道勤務、その間に千葉県船橋市に所在する第一空挺団において基本降下課程(落下傘で降下する為の教育)を修了し、同年八月に現在の所属である第一空挺団に転属して現在に至ります。



校舎南に停められた自衛隊車両

は、千葉県内において物資輸送、給水支援等の任務を遂行した後、原子力発電所の事故に伴う地域住民の避難誘導任務を与えられ福島県いわき市へ移動しました。その後、いわき市の任務を継続しつつ主力は行方不明者捜索のため南相馬市に行く事となり、私の所属する部隊は原町高校の体育館を借用し、ここを拠点として活動を実施しました。

後輩たちから 学んだこと

二人目は山田博子さんです。高校時代は野球部の腕腕マネージャーとして活躍され、大学卒業後、番組制作会社(株)ジャパンウェイブに入社。現在はフジテレビのスポーツ情報番組「すぽると!」制作に携わり、震災後の野球部に密着して取材をしていただきました。



野球部員とともに。前列右から2番目山田さん

「いつか原高野球部の取材がしたい」その夢が、まさかこんな形で実現するとは夢にも思っていなかった。

は嬉しかった反面、このような事態で来る事が悲しくもあり複雑な気持ちでありました。捜索活動は、泉地区一帯から始まり新田川、続いて雫地区、渋佐地区、川畑地区の捜索を、五月二十一日以降は大熊町大沢地区一帯での活動を実施し、空挺団としては六月七日に捜索終了となりました。

前を向いて

最後は大沼美里さんです。在学中に生徒会長を務められ、現在は東京学芸大学で勉学に勤しんでいます。昨年六月、東京において募金活動を行った安部雄飛さん、佐藤由紀さんとともに相馬サテライトを訪れ、生徒会に義援金をご寄付いただきました。

地元を離れ二十三年、休暇の度に帰っては来るものの、被災地を見た時は信じられない状況で活動にあたり辛いこととの連続でしたが、「自衛隊さん、ありがとう」の看板や声援、自分たちが被災しているにも拘らず高校に会いに来てくれた友人らに逆に励まされ、また校長先生、生徒会長の思いに「絶対に負けられない」という気持ちが湧き上がりました。

三月十一日、あの地震は私たちが大切なものを奪っていききました。大好きな家族やかけがえのない友達、思い出深い故郷の風景、住み慣れた家。あの夜、メディアで報じられていた映像を見ながら、故郷で暮らす人の無事を何度も祈りました。それと同時に、無事を願うことしかできない自分の無力さに腹が立ちました。被災された皆さんが不安な夜を過ごし、生きていくための支援を必要としていると知りながら、不安を和らげてあげることが、物資を届けに行くことも出来ない。もどかしくて、辛くて、不安で、泣いてばかりいたような気がします。



左から安部さん、佐藤さん、大沼さん、鎌田生徒会長、櫻井副会長

しかし、家族や地元の友達と連絡が取れるようになって、離れて暮らす自分が見えなくなりました。すぐに故郷に行きたくて、離れた土地で出来る支援を考えたのが、募金活動を始めたきっかけです。代々木公園や上野恩賜公園での活動には予想以上の卒業生の皆さんが参加してくださり、地元を離れて生活している人も、故郷を大切に想う気持ちは変わっていないと感じることが出来ました。

野球部がグラウンドに帰って来たとき、部室が震災当時のままだったら、きつと悲しむと思い、部室を掃除した。その中で見つけた「秋季県大会ベスト4」という輝かしい後輩たちの実績を証明した新聞。甲子園もきつと夢じゃない！そう確信した。そして、震災にも負けず、甲子園出場を夢を諦めない選手たちがいることを全国に伝えることが今の自分に出来ることだと思

あの日から、大切な故郷は大きく変わりました。しかし、私たちにとってかけがえのない場所であることは、これから先もずっと変わらないと思います。なかなか先が見えない未来を見つめるのは少し辛いけれど、辛い時は立ち止まって、少しずつでも確実に、みんなで支え合ひながら前に進んでいきたいと思います。

同窓会東京支部を通して義援金をいただいた方は、四面に掲載させていただきましたが、直接原町高校へのご支援をいただいた同窓生を紹介いたします。

- 東京都 鴨尾美恵子
千葉県 辻 真弓
第五十五回卒四・五組有志 (敬称略)

《原高在籍数と転学者数》

Table with 3 columns: School, April End, January End. Rows: 相馬サテライト・本校, 県北サテライト, 計

Table with 6 columns: Region, School, April End, January End. Rows: 県内 (北, 南, 会津, いわき, 相双), 県外 (北海道, 青森, 岩手, 宮城, 秋田), 山形, 茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川, 新潟, 山梨, 長野, 岐阜, 愛知, 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 鳥取, 高知, 計

有志のステージ発表等. 9・6 県北サテライトで遠足. 9・26 校庭の除染作業・表土除去始まる. 10・1 緊急時避難準備区域解除. 10・7 校舎の除染作業始まる. 10・14 県教委が来年度募集定員発表. 原高は一クラス減の五クラスに. 10・15 保護者・職員による原高校舎・体育館清掃. 10・21 仮設校舎、相馬高校での最後の授業. 10・24 相馬サテライトから原高校舎への引越し(両サテライトとも休業). 10・25 原高校舎授業再開準備(相馬サテライト休業). 10・26 二二九日ぶりに原高校舎で授業再開. 生徒会役員選挙も行われる. 12・13 愛媛県の招待により、二学年の修学旅行が実施される. 12・16 来年度の各サテライト校集約方針を県教委が発表. 原高、小高商、小高工の通学困難な生徒は、原町の富士旅館(にしき旅館)中央自動車学校の(宿舎)を宿舎とする. 12・21 常磐線原町駅が馬間町が運転再開. 12・21 例年原町高校で実施されていた相双地区の大学入試センター試験が、相馬東高校で実施される. 12・21 1期選抜実施. 三十八名の中学生が受験.